

科目名称	生活活動論応用
授業コード	AE266
英語名称	Application of Activities of Daily Living Theory
学期	2024年度後期
単位	1.0
担当教員	竹嶋 理恵
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	生活活動論基礎から引き続き、日常生活活動に対する援助方法を修得する。疾患別・対象者別に実践的で具体的な評価・訓練等の援助技術を修得する。疾患別の治療原理を鑑み、各種日常生活活動の評価・訓練・援助方法の知識と技術を総合的に学習する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	作業療法士として臨床経験のある教員が、実務経験に基づき生活活動に対する作業療法支援の方法を説明する。
到達目標	<p>本科目はカリキュラムポリシーに掲げる「基礎作業療法学や評価学、治療学、管理学などから、作業療法の実践を学ぶ科目【専門科目】」に該当し、以下の3つを目標とする。</p> <p>1) 対象者の心身機能・生活活動・環境の関係を説明することができる。</p> <p>2) 対象者の心身機能・生活活動・環境に応じた、適切な作業療法評価・支援計画を立案し、実施すること</p>
計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) オリエンテーション / 生活活動に対する作業療法の実践法</li> <li>2) 脳血管障害の対象者の生活活動支援（評価と記録）</li> <li>3) 脳血管障害の対象者の生活活動支援（事例検討）</li> <li>4) 脳血管障害の対象者の生活活動支援（報告と討論）</li> <li>5) 脳血管障害の対象者の生活活動支援（まとめ）</li> <li>6) 脊髄損傷の対象者の生活活動支援（評価と記録）</li> <li>7) 脊髄損傷の対象者の生活活動支援（調査）</li> <li>8) 脊髄損傷の対象者の生活活動支援（報告と討論）</li> <li>9) 脊髄損傷の対象者の生活活動支援（まとめ）</li> <li>10) 呼吸・循環器疾患の対象者の生活活動支援</li> <li>11) 神経・筋疾患の対象者の生活活動支援</li> <li>12) 運動失調の対象者の生活活動支援</li> </ol>

計画・内容	13) 運動器障害・整形外科疾患の対象者の生活活動支援 14) その他の疾患の対象者の生活活動支援 15) 総括
授業の進め方	1) スライド、配布資料、教科書・動画等を用いて講義を行う。 2) 講義の内容に合わせたグループワークを行いながら授業を進める。 3) 具体的な支援方法について理解を深めるために、随時課題を与える。
能動的な学びの実施	理解を深めるために、事例検討や支援の演習を行う。
授業時間外の学修	授業前にあらかじめ教科書の該当箇所を読み、不明な点をまとめておくこと。 授業後に教科書、配布資料を確認し、講義ノートを整理すること。 合計15時間程度
教科書・参考書	【教科書】 濱口 豊太 編集 標準作業療法学専門分野 「日常生活活動・社会生活行為学」 第2版 (医学書院) 2022年  【参考書】 柴 喜崇 下田 信明 編集 PTOTビジュアルテキストADL 第2版 (羊土社) 2021年 伊藤 利之 ほか 編集 新版 日常生活活動 (ADL) 第2版 評価と支援の実際 (医歯薬出版) 2020年 酒井ひとみ 著・編集 作業療法技術全書 日常生活活動 改定第3版 (協同医書出版社) 2009年 木之瀬隆 編集 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト「日常生活活動学 (ADL)」(メジカルビュー社) 2016年 石川 朗ほか 編集 15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト ADL・実習 (中山出版) 2021年
成績評価方法と基準	授業で提示する課題や小テスト30% + 定期試験70%から生活活動に対する作業療法支援技術を判断する。
課題等に対するフィードバック	授業資料の中で、提出された課題へのフィードバックをします。 必要に応じてCampusSquareから個別にコメントをします。
オフィスアワー	CampusSquare を参照
留意事項	本科目は、生活活動論基礎に続く応用科目です。必要に応じ、生活活動論基礎をはじめとする各作業療法関連科目の資料を各自で用意して下さい。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・Zoomによるオンライン授業を実施する。 ・Zoomのブレイクアウトルームを使用してグループワークを行う。  成績評価方法と基準 授業中に提示する課題や小テスト50% + 定期試験に代わるレポート50%